

道徳

ジャーナル

- 21世紀 心の時代に
情報モラル教育は、「心の教育×情報社会に
関する知識」 堀田龍也 1
- 道徳授業 私の実践
・情報モラルの授業—児童の気付きを重視して—
山本岳大 4
- ・事前学習を活用した人物教材の授業提案
前田明彦 5
- ・教材との合わせ方を工夫した道徳授業
灰田有希 6
- ・チームで取り組んだ道徳の教科化に向けての
実践 虹川 謙 8
- ・考え、議論する道徳を目指して～特別支援学
級（知的）での実践～ 平井雅子 10
- どうなるこれからの道徳授業 12
- SDGs×道徳 i

情報モラル教育は、

「心の教育×情報社会に

関する知識」

21世紀
心の時代に

はじめに

まもなく児童生徒一人一台の情報端末が整備されます。ICTを活用して必要な情報にアクセスし、自分にとってどの情報が必要か判断し、得られた情報を組み合わせ、自分の考えを付け加えて発信する……といった一連の学習活動が各教科等の中で期待されます。

このような学習活動によって身につく問題発見・解決能力、探究的な態度、社会の現状と自己の関心をつなげて学んでいく学びに向かう力など、各教科等の知識・理解を超えた学び方のスキルの育成が求められる時代です。

こうした学習を支える基盤となる資質・能力の一つとして、情報活用能力（情報モラルを含む）が学習指導要領総則に位置付けられました。各

学校では教育課程を編成する際に、情報活用能力がしっかりと身につくようにカリキュラム・マネジメントを行う必要があります。

本稿では、この情報活用能力の育成と情報モラル教育について取り上げます。

情報モラル教育に関する国の動向

二〇二〇年四月公表の内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、中学生のインターネット利用率は、男子九四・〇%、女子九六・一%です。そのうち、スマートフォンでの利用は、男子六四・七%、女子七三・二%となっており、男子より女子の方が多い傾向にあります。

それに対して、タブレットでの利用は、男子三六・〇%、女子二九・五%、携帯ゲーム機で



東北大学大学院
情報科学研究科教授

堀田龍也

の利用は、男子四二・二%、女子二一・八%であり、女子より男子の方が多い傾向にあります。

スマートフォンでインターネットを利用して中学生が、平日にインターネットを利用している時間は、平均で一三三・五分と二時間以上であり、三時間以上と回答した中学生が三三・七%存在します。ちなみに、利用時間については男女で大きな差はみられません。

このように、すでに児童生徒のICTへの接触傾向は次第に低年齢化しています。他国と異なっているのは、日本では学校教育へのICT環境整備が大幅に遅れていたため、学習活動においてICTを活用する経験が児童生徒にほとんどなく、その結果、彼らがICTを遊びの道具としてしか捉えられていないことです。

そして、十分な学習経験をもたないまま見よう見まねでネットにアクセスし、ネット情報の適切な読解の方法論を知らずにクリックしたり、不適切なコミュニケーションの特徴を知らずにトラブルに巻き込まれたりしています。

近年、インターネットの過度な利用によるネット依存や、ネット詐欺・不正請求などのネット被害、リベンジポルノなどのインターネット上の犯罪、インターネット上への不適切な投稿による社会問題などが頻発しています。

とりわけ、ネット依存により日頃の生活リズム

ムが崩れ、学習時間が奪われるなどの影響が生じている問題や、ネットいじめ等にまつわる児童生徒への指導が喫緊の課題となっています。

これらの課題の多くは、「遵法精神、公德心」や「節度、節制」、「善悪の判断」、「友情、信頼」など、道徳的価値に引きつけて検討できるもので、現実の問題を解決するための道徳的判断力の育成として題材化できる内容です。

そのため、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の要である特別の教科道徳（以下、道徳科）は、情報モラル教育においても中核的な役割を果たすこととなります。

しかし、情報モラル教育に関する指導は、学習指導要領総則に記載されていることから分かるように、学校の教育活動全体において意図的・計画的に行うものです。

学習指導要領における 情報モラル教育に関する記述

小学校の『学習指導要領解説 総則編』では、「学習の基盤となる資質・能力」に関して次のように記述されています。

「各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤と

なる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」中学校、高等学校及び特別支援学校でも同様です。

また、『学習指導要領 解説 特別の教科道徳編』における指導計画の作成と内容の取扱いの項目では、「児童（生徒）の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること。」と示されています。

さらに、教材については、「情報化への対応等の現代的な課題など」の題材を「発達の段階に応じて取り上げる」場合には、「単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば『節度、節制』や『規則の尊重』など関わりのある道徳的価値について考えを深めることが大切である。」と記述されています。

以上のことから、道徳科において情報モラルに関する指導を行う際には、道徳科の内容との関連を踏まえることに留意すべきとなっていて、情報モラルに関する学習指導はすべて道徳科で行うと規定されているわけではないことが確認できます。

では、SNSの特性のようなICTに関する

知識等の理解はどうすればよいのでしょうか。これらは道徳科の教育内容ではないとはいへ、実際には道徳的価値だけでは情報モラル教育としては不十分です。

『中学校学習指導要領 解説 特別の教科道徳編』では、「情報モラルと道徳科の内容」として「例えば、思いやり、感謝や礼儀に関する指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、遵法精神、公德心に関わる指導の際に、インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすることが考えられる。また、情報機器を使用する際には、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともあるため、指導上の配慮を行う必要がある」と示されています。小学校学習指導要領でも同様です。

児童生徒は日常的に情報機器に接し、それを介して他者とコミュニケーションしている中で、対面、書き言葉、写真、動画などのコミュニケーション・ツールの特性を踏まえた適切な行動について考えさせる学習指導が望まれます。

また、同解説では、「情報機器の使い方やインターネットの操作、危機回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことにその主眼を置くのではない」と示されています。危機回避に必要な知識等についてはあくまでその後の道

徳的な判断を促すための前提知識として提供するに過ぎないのです。

しかし、このことは、情報モラル教育を実施する際の大きな課題でもあります。例えば、昨今多く見られるSNSでの様々なトラブルは、相手を思いやる気持ちや、ルールを守るといった、道徳的価値に関係する内容が含まれる一方で、インターネットやSNSの仕組みに関する知識・理解がないと適切に判断できないという現実があります。

すなわち、道徳的な判断を児童生徒に求め、その基盤として情報および情報技術、情報社会等に関する基本的な知識・理解が必要となるのです。

SNSでの様々なトラブルは道徳科における題材として扱うことができると考えられるものの、そのために必要となる情報および情報技術、情報社会等に関する基本的な知識・理解は道徳教育の目標そのものではないという矛盾にぶつかります。

情報モラル教育Ⅱ心の教育× 情報社会に関する知識

これらは、情報モラル教育が重視され始めて以来、ずっと横たわる課題です。しかし、情報

技術そのものや、情報サービス、ツール等に大きな変化が生じていることから、学校レベルで児童生徒の活用実態を把握したり、他校や他地域で起こった事案等に関する最新の情報の入手に努める体制を準備したりする必要がありま。情報モラルに関する事案の多くは、学習指導と生徒指導のいずれにも関わるものであると同時に、学校内と学校外にまたがるものであり、多くの人が関わる傾向にあるため、適切な指導体制の確立が必要となります。

このように、各教科等と道徳科とをどのように関係付けて情報モラル教育を行うのかという課題は、学校の教育活動全体を見越した適切な教育内容の配置の課題であり、それはすなわちカリキュラム・マネジメントの観点からの情報モラル教育の充実の問題なのです。

道徳科は情報モラル教育の要であるとしても、教育課程全体の中でどのように情報モラル教育を実施するのか、各学校の実状や課題、指導体制等を踏まえて検討することが肝要となります。

(ほりた たつや)

道徳授業私の実践

情報モラルの授業

—児童の気付きを重視して—

大阪府大阪市立深江
小学校 教頭
山本 岳大

授業では気付きがなければならない
と考える。そこで、児童の気付きを中
心に授業を構築した。

授業の概要

- 主題名 責任と規律ある行動
- 内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任
- 教材名 「会話のゆくえ」(『新・みんなの道徳 6』学研)
- あらすじ あゆみは、合唱コンクールに向けて優勝を目指してもっと上手になりたいと思い始めたが、SNSでの会話がうまく進まず、他人への非難になってしまう。
- ねらい 相手の表情が見えないこと

授業の実際

① SNSのよさについて
児童は、自分の経験を振り返り、友

達とコミュニケーションが取れたり、すぐ情報を知ることができたりして便利だと答えていた。

② あゆみがいつも連絡を取り合っているSNSのグループに連絡を取った理由について

ここでは、あゆみはクラス全体で優勝を目指して頑張りたいたいという思いがあることを押さえた。

③ この会話のみんなの発言でよくないものと、その理由について

児童は「な○こ」に対する発言に注目し、その理由である「見られていないから」や「陰口みたい」などからSNSの特徴を押さえることができた。

④ あゆみのよくない点と、その理由について

ここでも、児童は「な○こ」への発言に話を合わせていったことがよくないとしていた。また、ソプラノパートに「がんばって」という部分から、表情が見えないから誤解を与えたり、相手の気持ちを考えにくいというSNSの特徴に気付いていた。

⑤ あゆみに足りなかったものについて
SNSの特徴として非難につながりやすいことに気付き、自分の発言の影

響を考えることや、自分の考えをしっかりと大切さについて考えていた。また、クラスのことについて一部のSNSのグループで話したことが原因であると考える児童もいた。

成果と課題

授業の最後に書かせた道徳ノートの記述から、児童はSNSの特徴に気付き、SNSでも相手のことを考え、自分の発言に責任をもつ大切さを理解することができたと考えられる。

しかし、なかなか意見が出ない場面もあったので、児童がさらに考えたい工夫が必要である。

(やまもと たけひろ)



道徳授業私の実践

事前学習を活用した

人物教材の授業提案

鳥取大学附属小学校
教諭
前田 明彦

人物教材を扱う際は、その人物の全体像を知っておくことが有効である。本稿は、人物についての事前学習と、それを基にした授業展開を提案する。

授業の概要

- 主題名** やるべきことをしっかりと
- 教材名** おらもいしやになる（『新・みんなのどうとく 2』学研）
- 内容項目** 希望と勇氣、努力と強い意志

○**ねらい** 勉強や仕事を頑張ることがなりたい自分につながることに気が付き、くじけず最後までしっかり努力しようとする態度を養う。

【事前の取り組み】

授業を行う数週間前に教材を読ませ、ワークシートを配布した。ワークシートには、野口英世の年譜と人物像、偉業を書く欄を設けた。また、教室には英世の伝記や関連図書を用意して、いつでも読めるようにした。英世への理解や興味がより深まるように、教材文にないエピソードも紹介した。子どもたちが調べてきたものは整理して掲示し、英世の人物像を学級全体で共有できるようにした。

【導入】

野口英世について知っていることや事前に調べたことの確認、共有。

【展開】

○：発問 ……子どもの発言

↓…子どもの発言から表れた反応

- お話を読んで野口英世について思ったことを言いましょう。
- ・左手にやけどをしたのに、人が寝ている間も勉強を頑張ってるすごい。
- ↓それを続けたのもすごい。
- ・いじめられて、学校に行かないと言った清作（改名前の英世の名前）にお母さんの励ましの気持ちが伝わった。
- ・本当に医者になったのがすごい。

○清作はどんな思いから、勉強や仕事に取り組み続けたのでしょうか。

- ・ばかにされないように勉強で差をつけてやろうという思いが強かった。
- ↓「てんぼう」と言われなくなかった。悔しかった。
- ・手が動くようになって感動した。

- ↓全然動かなかった手が、ちよつとでも動くようになったのは、すごい。
- ・将来すごい人になってみせるという気持ちで誰よりも強かったから。

・一生懸命頑張っているお母さんを見て、自分も頑張ろうと思った。

↓お母さんの励ましの言葉を信じた。
↓小林栄先生や渡部鼎先生たちも助けしてくれた。

○野口英世の生き方から、自分に取り

入れたいことは何でしょう。
（ワークシートに記入）

【終末】

英世が好きだった言葉「忍耐」と、母シカが英世に宛てた手紙の紹介。

おわりに

子どもたちは事前学習により、英世の業績や人間関係、エピソードを交えて発問に答えていた。友達の発表を受け、自分が知っていることや考えたことをつなげて発表する姿もあった。

悔しさからの反動、医学への感動、母親への感謝や愛、多くの人の支えなど多様な意見があり、英世の生き方どの点に感銘を受けたかがえた。

偉人の生き方を自分事として考えることにもつながったと思われる。ワークシートには、勉強を頑張りたい、我慢することも大切、あきらめずに取り組むなどの意見が多く見られた。

さらに自分事として人物の生き方を捉え、多面的・多角的に考えを深められる授業が展開できるよう、研鑽を重ねたい。

（まえた あきひこ）

道徳授業私の実践

愛知県豊川市立一宮中学校
教諭
灰田 有希

教材との出合わせ方を工夫した道徳授業

スライドと動画を効果的に組み合わせる

はじめに

本校が市教育委員会からの研究委嘱を受けたのが二年半前。以前から道徳の授業に興味をもっていたが、研究委嘱をきっかけに、研究主任として、また、道徳教育推進教師として、様々な立場を意識して実践に取り組んできた。セミナーに参加して教材の効果的な使い方を学んだり、生徒の思考を刺激する発問の大切さを知ったりするなど、この数年間で多くを吸収することができた。中でも、「教材との出合わせ

せ方」について学んだことが、今の自分の道徳授業に大きく影響を与えていると感じる。

授業の実際

- 主題名 勤労を通しての社会貢献
- 内容項目 勤労
- 教材名 『血の通った義足』を作りたい（『中学生の道徳 明日への扉3年』学研）
- ねらい 義肢装具士という仕事を通して、「お金のためでなく、患者のため、納

得のいく仕事がいい」と思うようになった白井さんの姿と、生徒自身の二年生での職場体験を重ね合わせて考えることにより、自らの勤労観を「やりがい」「人のため」という視点で見つめ、職業選択についてより広い視野で職業を選択する意識を高める。

教材について

義肢装具士である白井二美男さん。白井さんは、どんなことを考えて義足製作に取り組み、何を大事にしているのか。義足を作ること以外にも多くの

ことを大切にし、これまでに七千人以上のサポートをしてきた白井さん。その姿を通して生徒たちは「勤労観」や、自分ができる「社会貢献」について考えることができる。

本教材を効果的に扱うために、白井さんの声を聴ける映像が必要だと考えた。また、患者さんたちが、白井さんについてどのような印象をもっているのかを加えることで、白井さんの仕事に対する熱い姿勢がより伝わるだろうと考えた。

そこで「陸上スポーツクラブ」に所属する方々と、白井さんのインタビュー、映像などを組み合わせて授業に臨んだ。

授業展開

【導入】何のために働くのかを考える
職場体験の経験を想起させ、働くときに何を大事にしたか、これからどんなことを重視して職業選択をしていくかについて問い、「自分が何のために働くのか、働くとはどんなことなのか」を改めて考えさせた。

【教材の提示】教材との出合いを効果



その後、白井さんが義肢装具士であることを紹介し、義足の作り方を確認

的にするために、スライドを用いた。教材に出てくる白井さんの仕事に対する思いを一言ずつ提示することで、生徒を引き付けることができる。また、どんな仕事をしている人なのかを考えさせるために、白井さんの顔写真や、パラリンピアン谷真海選手をサポートしている写真、義足をつけている少年と一緒に写っている写真のそれぞれを、一部隠して提示した。

した。さらに「血の通った義足を作りたい」の「血の通った」の部分を隠し、どのような義足を作りたいと思っているのかを考えさせてから、教材と出合わせた。

【教材の範読】教師による範読中、白井さんの働き方について、心を動かされた部分に線を引かせる。それを生徒同士で共有させ、その部分を選んだ理由を発表させた。どのページからも、白井さんの仕事に対する熱意や相手を大切にしようという思いが伝わってくる。生徒はそれらに共感し「自分だったら」という視点で働くことについて考えることができていた。

【支えられている人々の声を聴く】

義足を作ってもらった方々が、白井さんに対してどんな思いをもち、どのように支えられていると感じているのか、それを聴くことにより、本文に出ている言葉がより確かなものになる。そう考えて、白井さんが立ち上げた陸上スポーツクラブのメンバーが話している動画の一部を視聴させた。

- ・「義足についてかっこいいと思うようになった」
- ・「見せたいと思うようになった」

- ・「かわいそうな人と思われていないことが分かった」
- ・「白井さんがいたから今の自分がある」

・「義足をつけて、思いっきり走りた
い。一位になりたい」
と話す女性や少年の表情を見ることにより、生徒たちは「血の通った義足を作りたい」という白井さんの思いを少しずつ具体的に感じることでできていた。

【白井さんの思いを聴く】

生徒に、白井さん本人の温かさも含め、熱い思いと仕事に対する姿勢を感じさせたい。そう考えて、白井さんがインタビューに答えている動画の一部を視聴させた。教科書の中の人々が、話をし、義足をつけている人々を全力で支えようとしている。動画を用いることで、本文中の言葉が、さらに説得力を帯びてくる。生徒全員が食い入るように動画を見ていた。

【白井さんの生き方から学べることを考え、発表する】

教材と動画から、生徒は白井さんの生き方に感動し「すごい」と感じていた。「すごい」とは具体的に何か。自

分のイメージしていた「働くこと」と比べて、何を考えたのか。自分の勤労観を改めて考え、「白井さんの生き方から学んだこと」を授業の振り返りとして書かせ、自由に発表させた。限られた時間にもかかわらず二十人以上の生徒が、途切れることなく次々と発表を続けた。教材全体から大きく心を動かされたのではないか。

おわりに

教材のもつ力を最大限に活用するためには、生徒の教材に対する「読みた
い」や「何だろう」を高めてから、出
合わせる必要がある。そのために、導
入でスライドを用いて、白井さんの勤
労観や働く姿勢を意識づけた。展開で
は動画を用いて、患者さんの声・思い
を知らせ、白井さんの温かく熱い思い
も伝えることができた。

また、教材に載っている写真をそのまま使ったり、一部を隠して提示したりすることも効果的である。授業の導入で生徒の心を思いっきりつかむ。そんな道徳授業を今後も目指していく。

(はいだ ゆうき)

〈参考文献〉

- ・東京2020パラリンピックジャンプVol.4 (集英社)
- ・転んでも、大丈夫 (ぼくが義足を作る理由 (ポプラ社))
- ・切断者スポーツクラブスタートラインTokyo HP
- ・Beautiful JAPAN towards 2020 HP

道徳授業私の実践

北海道旭川市立東光中学校
教諭
虻川 謙

チームで取り組んだ

道徳の教科化に向けての実践

はじめに

義務教育最後の一年となる中学三年生には、どの教師も様々な願いや思いをもって接している。副担任という立場であってもそれは同じである。道徳の授業は本来担任の担当なのかもしれないが、本校では道徳が教科化される前年までは、担任にこだわらずに多くの教師が各学級道徳の授業に積極的に携わってきた。その結果、生徒は新鮮味のある授業を受けることができ、多様な見方や考え方につながるきっかけ

道徳科の授業で大切なもの

道徳の授業を構築する上で素朴な疑問がいくつもあった。それは、「そんなことも知らないの」と思われそうで、恥ずかしくて聞きにくいと感じていた。しかし、同じような疑問を抱えている教師が案外多くいることが分かり、道徳の授業に対する抵抗感が少しずつ薄れていった。次の五点は、チームの中でよく話題になったもので、今後も大切にしたい視点と考えている。

① 授業内容

学習指導要領を何度も読み、授業内容が価値項目に合っているか検討す

授業の実際

公開授業の教材選びに悩んでいたところ、国語科の教師から「詩」でやっ

を作ることができたように思う。教師にとっても実践を積み重ね議論することを通して道徳科に関する研修の内容を深めることができた。以下の内容は、本校での研修および旭川市教育研究会の道徳部会の研究発表会で公開した授業をもとにしている。実に多くの方々の助言をいただき、チームとして取り組むことの成果を得ることができた。

なことも知らないの」と思われそうで、恥ずかしくて聞きにくいと感じていた。しかし、同じような疑問を抱えている教師が案外多くいることが分かり、道徳の授業に対する抵抗感が少しずつ薄れていった。次の五点は、チームの中でよく話題になったもので、今後も大切にしたい視点と考えている。

なお、資料として「中学校道徳Q&A」「中学校道徳科スタートブック」(学研)を何度も読み、参考にした。

・自分勝手な思い込みや価値観になってはいないか。

・生徒の実態
何をどの場面ですべてに考えさせたいのか、生徒の実態を考慮した上で明確にする。

② 生徒の実態
何をどの場面ですべてに考えさせたいのか、生徒の実態を考慮した上で明確にする。

③ 中心発問、補助発問
適切な発問かどうか。「問い返し」の準備)

④ 話し合い
・「考え、議論する道徳」になっているか。

⑤ その他
・道徳のつもりが国語の授業になっていないか。

・よい教材が、授業者の進め方で生かされていないことはないか。

・授業の中で考えが揺さぶられる場面があるか。

・授業形態がワンパターンになり、生徒が飽きないか。

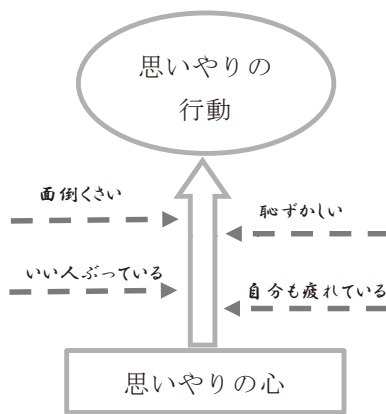
てみてはと提案があった。短い中にも考えさせられることが多いと言うのである。その結果、吉野弘さんの詩「夕焼け」を教材に、生徒と「思いやり」について考える授業を実践した。国語が苦手である自分が詩を扱うのはとても難しいと思ったが、この詩に登場する主人公の心の葛藤に共感するところがあり、生徒たちにもぜひ考えてほしいと思い、教材として使用した。授業を公開するにあたり、多くの先生方のご協力をいただき、本当にたくさんのごことを学ぶことができた。

誰でも「思いやり」の大切さは理解しているし、普段の生活の中で多くの経験をしてくれている。席を譲るという行為を経験した生徒は少なくない。思いやりのある行動ができ、また、相手が喜んでくれたときは多くの人にとって自分の喜びともなり、豊かな心を育むことにつながっていくものである。ただ、頭では理解できていても、行動にはなかなか結びつかないことが多い。「面倒くさいな」「断られたらどうしよう」「余計なお世話かも」「何だか恥ずかしいな」「いい人ぶっていると思われたら」「自分も疲れている」な

ど、周りの目を気にしてしまい、思いやりの心はあるのだが、行動に移せない。それら多くの原因は、自分自身の中にあることに気付くことができるような中心発問を考え、次のように授業を構築した。

◎中心発問

『娘はなぜ三回目に席を立たなかつたのか。この娘に思いやりの心があるといえるのだろうか』



その様子を図で表すことで心の葛藤を理解し、整理できればと考え、右のような図示を試みた。

(横の破線は、思いやりの行動を妨げる様々な障害を示した)

中学三年生では、「思いやり」については、思うだけではなく行動が求められること。また、相手の立場を理解

した上で見守り、寄り添う姿勢も大切であること。さらには、相手の重荷にならない配慮も必要な場合があると気付くことが望ましいと考えていた。授業の中で、それに近い意見が出てきたが、うまく取り上げられず、学級で共有することができなかったことが反省点として挙げられる。



◎終末の発問

『つらい気持ちでいる娘にあなたならどんな言葉をかけてあげますか』
・ワークシートを使用し、数名の考えを紹介して授業を終えた。

研究のまとめ

チームで取り組んだ授業の成果は、次の通りである。

・教材観をはっきりもつ。(指導要領を読む)

・中心発問は妥当かどうか考える。

(問い返し)

・生徒の意見をどう整理していくか考える。

・板書計画(可能であれば図を活用)

・生徒が書いたワークシートには、何かひと言コメントを加える。

おわりに

中学校では、特別の教科道徳の授業が始まって一年が経った。教科書やワークシートが充実し、私たち教師側も多くの研修を経て、それなりに準備をしているのスタートとなった。思うようにいかないことも多いが、やりがいを感じて実践している教師も多いように感じる。今後も、生徒と共に学ぶ気持ちを忘れずに実践を積み重ねたい。

(あぶかわ ゆずる)

道徳授業私の実践

静岡県御前崎市牧之原市学校組合立
御前崎中学校教諭
平井 雅子

考え、議論する道徳を目指して

〈特別支援学級（知的）での実践〉

はじめに

新学習指導要領で示される「考え、議論する道徳」を実現するためには、生徒が教材に自我関与したり、多面的・多角的に考えたり、他の生徒から自分とは異なる考えを聞いたりすることが必要である。

しかし、特別支援学級（知的）では、学年や発達段階の異なる生徒が所属しているため教材選別に苦労があり、学級の生徒数が八人以下であるため、ものの見方が一面的になったり、

広がりにくくなったりする。

どのような工夫をすれば「考え、議論する道徳」になるのか。以下に、これまでの実践から紹介する。

有効だった工夫

《教材の工夫》

特別支援学級（知的）の生徒にとって学年相当の道徳教科書の教材は文章が長くて言葉が難しい。教材の内容を理解できなければ自我関与も話し合いもできない。そこで、教師が教科書の文章を短くして易しい言葉で書き直し

たり、教材を創作したりした。

《板書の工夫》

「第〇回、教材名、内容項目」を必ず板書した。特に「内容項目」については、授業前に書くことで生徒の考えを誘導しないように、適切なタイミングを見計らって書いた。そうすることで話し合いの軸がぶれにくくなった。

《展開の工夫》

学級人数の少なさや、ものごとを一面的に捉えがちになることをカバーし、多面的・多角的に考えるために、ウェビングマップやロールプレイを積極的に取り入れた。また、自分事とし

て考えるために、「あなたならどうするか」とほぼ毎回問い掛けた。

《終末の工夫》

生徒の言葉や考えを否定しないで、積極的に認めた。その結果、生徒が安心して発言するようになり、次の道徳授業への意欲付けになった。

《その他の工夫》

板書とワークシートの様式を統一した。それにより、どこに自分の考えを書くか、生徒が混乱することがなくなった。また、板書した生徒の意見にネームプレートをはり、視覚化したことで、発表がつながりやすくなり、気持ちそれぞれにくくなった。

机の配置は大きくU字型にすることで、皆で考える雰囲気になり、発表が聞き取りやすくなった。

授業の実際

○教材名 お悩み相談シリーズ②「人は皆平等？」（自作教材）

○ねらい 自信を失っている「ぼく」へのアドバイスを考えることを通して、自分のよさを見つけて前向きに生きていこうとする態度を養う。

○内容項目 向上心、個性の伸長

《導入》

○平等とはどういう意味ですか。

・同じ ・一緒

《展開》

○人は皆平等だろうか。ウエビングマップを作ってみよう。平等である、平等でない、その他の三つの視点で考えよう。

（個別にウエビングマップ作り。）

○発表しよう。

（全体で巨大ウエビングマップ作り。）

「平等である」の視点

・誰にとっても一日は二十四時間。

・陸上に住んでいる。

・皆、赤ちゃんから大人になる。

「平等でない」の視点

・寿命が違う。 ・住む場所が違う。

・性格が違う。 ・考え方が違う。

・好き嫌いが違う。 ・人それぞれ。

○人それぞれって言葉が出たけど、そういうことをなんて言うかな。

・個性

○実は今日は「向上心、個性の伸長」の学習をします。（板書、話を元に戻して）「人それぞれだ」と感じるものは他にあるかな。

・声や見た目が違う。

「その他」の視点

（意見なし。）

○皆が平等か、そうでないか、どう考えますか。

（生徒全員が「平等ではない」という考えと理由を発表。）

○皆が平等ではないんだね。では、今からある人の悩み相談を聞いてください。（教師による教材の範読）

「人は皆平等？」（自作教材）

「人は皆平等である」なんて、誰が言ったのだろう。そんなのうそだ。

ぼくは、百メートル走は遅いし、体育部の全員リレーではだれかに抜かされる。持久走だって遅い。いつもほとんどビリで、まさに死にそうになりながらなんとかゴールする。おまけに算数はもっと苦手。算数がなくなればいいのと思ってる。

もっとイケメンに生まれたかった。なんで俳優の○○○○みたいにイケメンじゃないんだろう。

あーあ。神様はいじわるだ。なぜぼくはこんなふうになんて生まれたのだろう。なんてめぐまれていないのだろう。ぼくを作ったどこかの神様をうらむよ。

○この悩みに、あなたならどんなアドバイスをするかな。

（個別にワークシートに記入。）

○ロールプレイで発表しよう。

（全員が相談者とアドバイスする人を演じた。）

・自分だけのよいところがあるよ。

・違いは個性の一つだよ。

・皆それぞれだから落ち込まなくても大丈夫。

○アドバイスを聞いて考えたことを書こう。

・苦手も見方によってはよさになる。

・皆それぞれ。違うからいい。

《終末》

○（教師の話と振り返り）

（ワークシートに評価を記入。）

《成果》

・あえて、生徒個々の考え方は異なる視点や立場もウエビングマップを作ることでもの見方が広がった。

・自分の思いを表すことが苦手な生徒もロールプレイをし、自分の言葉でアドバイスを考えた。

・生徒によるアドバイスは、違いは個性であり、自分なりのよさがあるとあった視点のものや励まされた。温かく前向きな言葉が聞かれた。

《課題》

・生徒の考えを引き出そうとするあま

り、前半に時間を掛け過ぎる傾向がある。後半にゆとりをもつための手立てを考えたい。

「考え、議論する道徳」を目指して二年半が過ぎた。現在、六人の生徒全員が「自分の意見を言ったり人の意見を聞いたりして考える道徳は楽しい。」と言う。そんな言葉に救われたり、生徒の授業での様子に手応えを感じたりすることもあった。これからも生徒の力となる道徳授業を継続していきたい。

（ひらい まさこ）

おわりに



どうなるこれからの道徳授業

連載9回 いじめ防止編

とくちゃん

監修・法政大学兼任講師 廣瀬仁郎先生
マンガ・のはらあこ

先生



でも、もし起きちゃったら
どうしよう。



3. 開発的な指導

健康な体づくりのイメージ



- ・思いやりや生命尊重などの豊かな心を積極的に育てる
- ・人格の尊重
- ・支持的風土づくり

2. 予防的な指導

健康診断のイメージ



- ・いじめが発生しないような人間関係の調整
- ・「私たちのクラスでは、いじめは許されない」という集団機能の確立

1. 随時指導

救急医療のイメージ



- ・事実確認
- ・いじめを受けた児童生徒、その保護者に対する支援
- ・いじめを行った児童生徒や保護者に対する指導、助言
- ・再発防止に向けた全体への指導



「いじめをしちゃダメ」って
かけ声だけじゃ子どもには
響かない! 真正面から
向き合うべし! かな。



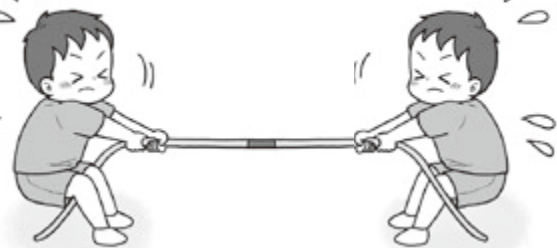
道徳の授業

……それでね、
いじめをしてはいけない
っていうのは、もうみんな
なら分かってっていると
思うんだ。

分かっているのに
なぜいじめが起きて
しまうんだろう？

自分事として考えさせるために

登場人物に自分を重ねて
心の綱引きをしよう。



巻き込まれたくない。
みんなに合わせて
しまおうかな。

よい関係を築きたい。
このまま見過ごして
しまっているのかな。

多面的・多角的に考えさせるために

それぞれの視点に立って
自分ならどうするか考えよう。



ボールを
取りに行けと
命令する子



命令される子



それを周りで
見ている子

自分の心と向き合っ
ていじめが起こらないように、
どんな心が大切かを深めたいね。



とくちゃん、今日の授業
どうだった？

一人一人が自分なりの答え
を見つけられる
いい授業だったと思うよ！



今度はいのちの教材で
いじめについて考える
授業を試してみたいな。

いじめを直接扱った教材が
連続しないように配慮したいね。

次回は情報モラルを
意識した授業づくり
についてご紹介！

SDGs × 道徳

連載 第3回

SDGs教育と カリキュラム・マネジメント

今回は、SDGsを教育現場で扱う上で意識したいこととして、「学習者の行動変容をもたらす」、「SDGsのゴールは相互につながっている」、「社会の出来事を自分事として捉える工夫をする」という3点と、そのための授業での指導について紹介しました。今回は、この3点を可能にするための環境整備と、深い学びにつなげるきっかけづくりについて紹介したいと思います。

● 違いを尊重する

道徳で扱うテーマに答えはありません。日本国憲法第13条に「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」とあります。道徳は、教師や社会が求める道徳観を身につけさせるものではないという理解が必要です。SDGsが目指す世界は理想的なものです。その前に憲法で保障されている個人を尊重する必要があります。道徳やSDGsを学習するなかで、児童生徒が何を感じ、何を思うかを尊重する意識が大切だと考えます。

インターネットやメディアの言説を見ていると、昨今の日本では「正しいか間違っているか」など、二元論で議論をしていることが多いと感じます。新型コロナウイルス対策でも、「経済か終息か」の議論がなされていますが、何が正しいか、正しくないか、明確に判別できることはほとんどありません。ある人の「正義」は異なる立場にいる人にとっては「正義」ではない可能性もあります。グローバ

ル社会では、社会的規範が異なることも多いため、違いを受け止める力、他者を思う力、そして対話の中から意思決定していく力が重要ではないでしょうか。「違い」に触れると、心にモヤモヤが出てきます。モヤモヤが出ることは当たり前だと受け入れ、お互いを否定するのではなく、双方にとって共通していることは何か、相手の意見で理解できる部分はないか考えることで、前に進むきっかけができて

話題のSDGs。中学校の学習指導要領にも盛り込まれています。SDGsの解説をはじめ、「取り入れたい！」と思える学校現場における実践などを、連載でご紹介していきます。

ル社会では、社会的規範が異なることも多いため、違いを受け止める力、他者を思う力、そして対話の中から意思決定していく力が重要ではないでしょうか。「違い」に触れると、心にモヤモヤが出てきます。モヤモヤが出ることは当たり前だと受け入れ、お互いを否定するのではなく、双方にとって共通していることは何か、相手の意見で理解できる部分はないか考えることで、前に進むきっかけができて

● 夢中になる、関心をもつきっかけとしての道徳

道徳は、モヤモヤに気付かせたり、個人の価値観を揺さぶったりする物語で溢れています。こうした体験を重ねていくことで、児童生徒自身の価値観や大切にしていることとつながり、主体的な学びや行動の変容に向かう「内発的動機付け」につながるのではないのでしょうか。「内発的動機付け」とは、デン&ライアン（2000）によると「個人の内なる心理的欲求のために行動する」ということです。報酬やプレッシャーといった外発的な動機付けではなく、個々の楽しみや挑戦のために行動するというモチベーションのモデルの一つです。児童生徒が夢中になる、またはSDGsに関心をもつ仕掛けの一つとして、道徳を起点に学習活動の幅を広げられると考えています。

● カリキュラム・マネジメントとは

カリキュラム・マネジメントという言葉をよく聞くようになりました。新学習指導要領の実践において重要視され

道徳ジャーナル107号 令和2年12月発行

発行所 株式会社 学研教育みらい 発行人 甲原 洋／編集人 木村友一

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

URL <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」は左記ホームページでもご覧いただけます。電子版(iOS, Android用)は「学研ブックビヨンド」から。

9300007460

学研 学研教育みらい ネット 検索



ていることの一つです。カリキュラム・マネジメントとは田村（2011）によると、「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営みである」とされています。この「カリキュラム」には、教育機関によるフォーマル教育のほか、インフォーマル教育（体系的ではない、家庭・就労・遊びの場からの学び）、ノンフォーマル教育（学習塾や習い事などの、体系化された学校外教育）が含まれています。SDGsの学習においては、学内で完結する学びだけでなく、学外での学習機会を含めた学びのデザインが重要となります。

● 学校内での活動

学内ではどのような活動ができるでしょうか。ゴール12の「つくる責任、つかう責任」を例に考えてみましょう。ゴール12の前提にある社会背景としては、人口増加や気候変動、有限な陸上・海洋資源などが挙げられます。リサイクルの仕組みを学ぶことで、エネルギーやゴミの分別といった身近な話題が関わっていることに気付く機会をつくれます。普段使ったり食べたりしているものの製造過程を調べることで、それが児童労働や低賃金での生産を強いて作られたものであったり、多額の輸送コストや環境コストがかかっていることに気付く機会になります。消費期限切れの製品がどうなるのかを学ぶことで、ある国では大量廃棄があり、ある国では食べ物や必要なものが満足に手に入らない現状があることについても学べます。

学習するなかで出てくるたくさんの問いについて、児童生徒と共に考えることが大切です。地球環境やエネルギーの持続可能な利用のために地産地消やリサイクルを推し進めることが、厳しい環境にある人の雇用を奪うことにならないか。そうならないためにはどのような制度が必要なのか。制度をつくるのは誰か。私たちはそのために何ができるのか……。このように、経済・社会・環境に配慮しながら「誰一人取り残さない」世界をつくるには何が必要で、私たちは何ができるのか、といった個々の価値観・道徳観に迫る問いが児童生徒からもたくさん生まれます。

また、あるテーマを複数の教科を通して学んでいく「教科横断型学習」も可能です。SDGsの理念とそれを達成するための17のゴールは、文理融合型のテーマばかりです。右ページの表は、ゴール12の中にあるターゲットの一覧です。それぞれの教科の切り口でどのような学習ができるか、想像を膨らませてみてください。英語でこのテーマ全体を扱うこともできます。理科や社会の切り口は考えやすいかもしれませんが、環境負担を考える上では算数・数学が必要です。また、実際に技術・家庭科、美術で何か作ってみることで、廃棄をどれだけ少なくして作れるかを体験することができます。美術でポスターを作り、啓発活動するのもよいでしょう。身近な教科、題材から社会につながることはいくらでもできます。そこからさらにゴール2「飢餓をゼロに」、ゴール1「貧困をなくそう」と関連させて、世界へとつなげていくこともできます。

SDGsについて様々な教科=レンズを通して学ぶことで

第6学年 ESOカレンダー				江東区立八名川小学校								
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		学習討論会 しよう		伝えられて きたもの			自分を見つ め直して		平和につ いて考える			
算数	借 匂 づ くり											
理科		体のつ くりと働き			生物とそ の環境		大地のつ くりと変化			生物と地球 の環境		
社会				江戸の文 化をつ つづけた人々			長く続 いた慣 習と人 々の暮らし		日本とつ ながりの深い国々		世界の未 来と日本 の役割	
総合	未来へは げだけ			江戸・深川の歴史を調べ、町を語ろう					世界の平和って何？ 私たちにできることって何？			
英語						町の紹介 ができるかな						
特活		編み物 をつくろう								八名川 まつり		
道徳		長生き ばんざい				古きよ きん		同じ地球 の子ども たち		世界が 100人の 村だったら		
音楽												
図工						12年後 の私						
体育		体幹と 体の抵抗力					食育・飲 食・食物					
家庭							日常の食 事と調理 の基礎					これか らの自分
	環境の教育			国際的な理解と協力			人権・命の教育			学習スキル		

（文部科学省：H 28，30 ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引より）

	ターゲット
12.1	持続的な消費と生産に関する10年枠組みプログラム（10YFP）を実施し、先進国主導の下、開発途上国の開発状況や能力を勘案し、すべての国々が対策を講じる。
12.2	2030年までに天然資源の持続可能な管理および効率的な利用を達成する。
12.3	2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食品廃棄物を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品の損失を減少させる。
12.4	2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じて化学物質やすべての廃棄物の環境に配慮した管理を達成し、大気、水、土壌への排出を大幅に削減することにより、ヒトの健康や環境への悪影響を最小限に留める。
12.5	2030年までに、予防、削減、リサイクル、および再利用（リユース）により廃棄物の排出量を大幅に削減する。
12.6	大企業や多国籍企業をはじめとする企業に対し、持続可能な慣行を導入し、定期報告に持続可能性に関する情報を盛り込むよう奨励する。
12.7	国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達を促進する。
12.8	2030年までに、あらゆる場所の人々が持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
12.a	開発途上国に対し、より持続可能な生産消費形態を促進する科学的・技術的能力の強化を支援する。
12.b	持続可能な開発が雇用創出、地元の文化・産品の販促につながる持続可能な観光業にもたらす影響のモニタリングツールを開発・導入する。
12.c	破壊的な消費を奨励する非効率的な化石燃料の補助金を合理化する。これは、課税の再編や該当する場合はこうした有害な補助金の段階的廃止による環境影響の明確化などを通じ、各国の状況に応じて市場の歪みを是正することにより行うことができる。また、その際は開発途上国の特別なニーズや状況を考慮し、開発への悪影響を最小限に留め、貧困層や対象コミュニティを保護するようにする。

（国連グローバルコンパクトウェブサイトより）

学習の幅が広がります。そこで児童生徒や教師から出てくる「なぜ？」を大切に扱うことで、自ずと道徳の学習にもつながっていくのではないのでしょうか。

●ESDカレンダー

世界の中でも日本はESDの推進事例がたくさんある国です。その中でも特に汎用性があり、活用しやすいものにESDカレンダーがあります。ユネスコスクールとしてESDを推進してきた東京都江東区立八名川小学校では、手島利夫前校長を中心に、ESDと学習指導要領・教科をつなげ、ESDカレンダーとして可視化しました（左下の表）。中学校では、奈良教育大学附属中学校が公表しているESDカレンダーがあります（下の表）。

これらを見ると、年間を通して設定した学習テーマについて、各教科の単元や特別活動等をつなぎ合わせた重層的な学びを実践していることが分かります。学校活動が密接にSDGsにつながっていることが伝わります。

SDGsも道徳も、児童生徒が学びに向かう「内発的動機付け」や「持続可能な社会の創り手」となるきっかけとして有用であることが伝われば幸いです。

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）

調査・研究統括 木村大輔

今回は、学校全体における「持続可能な社会の創り手」の育成実現のポイント、その取り組みを自己評価できる枠組みについてご紹介します。

奈良教育大学附属中学校ESDカレンダー		2 学年											
教科領域		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		R 他者とのコミュニケーションを促す	A 「アイスプラネット」 (地球環境保全)	F 「五重塔はなぜ倒れなかったか」 (世界遺産)	F プレゼンテーションをする		B 「字のない義書」 (平和・戦争体験)	CD 古文・漢詩・解説 (世界遺産・多文化共生)		A 「モアイは語る」 (地球環境保全)		F 身近な人の「物語」を探る (コミュニケーション)	
数学		F 文字式 民族数学に親しむ	D 臨海に關わって(依頼状・インタビュー)	F 連立方程式 節水について考えよう			D 1次関数 電気料金のしくみ	F 図形の持つ神秘性を感ずる		F 臨海		F 偶然の可能性 未来を予測する力	
英語		D ハワイの伝統文化	A 地球環境環境保護	D 日本の食文化 伝統文化			D 日本の伝統芸能	F 将来の夢 (自分と社会のつながり)	D 祭と地域の文化 (異文化理解)		D 多言語国家	BE カンボジアの残留地雷 (戦争・平和)	
社会		C 日本の歴史(原初・古代～中世前期)	A 奈良めぐり 事前指導	D 臨海 事前指導	C 日本の歴史(中世後期～近世)		C 日本の歴史(中世後期～近世)	BCE 沖縄修学旅行事前学習 (沖縄の歴史・沖縄戦)		A 日本の歴史(近代～)	CD 奈良めぐり 事前指導	BE	
理科		A 動物の生活と生物の変遷 (アメフラシの解剖)	A 動物の生活と生物の変遷 (アメフラシの解剖)	A 動物の生活と生物の変遷 (アメフラシの解剖)	A 動物の生活と生物の変遷 (アメフラシの解剖)		問題	化学変化と原子・分子		A 気象とその変化 (環境・水の循環)			
総合的な学習		事前学習 CD 奈良めぐり(法隆寺)	臨海実習 AD 答志島	事後学習 CD 答志島	(新聞・パネル作成)	公州交流学習 CD	沖縄修学旅行事前学習 BE (ウチナーを知る・沖縄戦)	社会見学 BE (京都・平和ミュージアム)		の実相・タクシープラン	CD 奈良めぐり (興福寺)		
特別活動 生徒会			行事報告会 文化のつどいに向けて スポーツデイ				学級誌書会 文化のつどい		人権学習 (人権差別)		B 平和の集い		卒業式
道徳			臨海実習に向けて						B 平和の集いに向けて				卒業式に向けて
技術		A 生物育成に関する技術 (自然との共存・共生)						A エネルギーの変換方法や力の伝達のしくみ (エネルギーの有効活用)					
家庭		A 食生活と自立(食文化の継承・フードマイレージ) (環境)						E 今の自分これからの自分 (性・ジェンダー・生命誕生の過程) (子どもの人権)					
保健体育		F 体育理論(スポーツを通して自国や異文化を理解する)	F 競技(コミュニケーション・スキル) スポーツデイに向けて				A 球技(コミュニケーション・スキル) 健康と環境		F 球技(コミュニケーション・スキル)				
音楽							D 沖縄の音楽	D 東アジアの音楽		D 日本の伝統音楽			
美術		D 臨海実習に基づく制作(答志島スタンプ)				F デザインの意味を考ふる (サイン・グラフィック)	F 他者のための美術 (デザインを通じた社会参加・だれかのための様子) 新聞から美術を採り取る(社会に目を向けよう)			D 文化遺産に関わる制作(奈良めぐり)			

(ESD カテゴリー分類号) A: 環境教育 B: 平和教育 C: 世界遺産教育 D: 多文化共生教育 E: 人権・福祉(健康)教育(シナジー) F: 基礎(コミュニケーション・多面的総合的批判的な見方等)

(出典：奈良教育大学附属中学校より)